



長崎大学 環境科学部

Faculty of Environmental Science
Nagasaki University, Japan



Illustrated by S.A. (2014年卒)



自然と人間の調和的共生を考える教育

気候変動、生物多様性の低下、森林喪失、激甚災害の増加、消滅する自治体、深刻化する獣害・・・私たちは環境危機の世紀を迎えています。本学部は3つの特色ある教育を通し、この複雑な危機に立ち向かう俯瞰的視野と実践マインドを持つ人材を育成します。

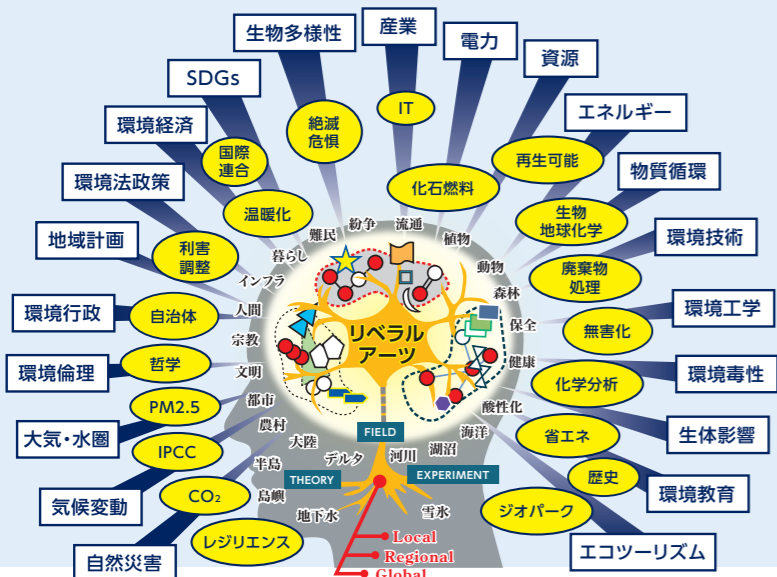
学部独自の国際環境研修

環境科学部オリジナルのプログラムとして、海外の大学生と一緒に、英語による座学、フィールド演習、環境施設見学などを含む国際環境研修を行っています。夏休みには海外協定大学から学生を受け入れて、日本や長崎の環境問題を一緒に考えます。春休みには環境科学部生が海外協定校を訪れ、その地域に固有の環境問題について学びます。海外協定校は、スウェーデン王国 Lund 大学、英国ランカスター大学、米国ハムリン大学、タイ王国マヒドン大学など、12校です。

1 広い視野を養う 文理融合の環境教育

環境問題に関わる学問は、化学、生物学などの自然科学から法律、経済、倫理学などの人文・社会科学まで多岐にわたります。本学部では、多分野にわたる科目を開講してカリキュラムを充実させ、幅広い知識が修得できます。

“文理融合脳”を養って環境を理解しよう!



2 自然豊かな 長崎を舞台とした フィールド教育

長崎は、海、山、希少野生生物などの多様な環境資源に恵まれています。本学部では、それらを活かしたフィールドワークの実践により、環境の観察眼と調査力を養います。



浦上川での
生物多様性調査



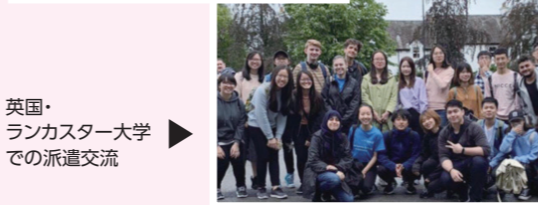
高島海水浴場
におけるサンゴの
健全度調査

3 地球規模での 持続可能な社会を考える 国際人を育成する教育

環境問題に国境はなく、さまざまな国の人々が協力しあうことが不可欠です。本学部では、国際的なキャリアを有する教員陣を配し、国際交流を実践する機会を数多く提供しています。



タイ王国・
マヒドン大学
での派遣交流



英国・
ランカスター大学
での派遣交流



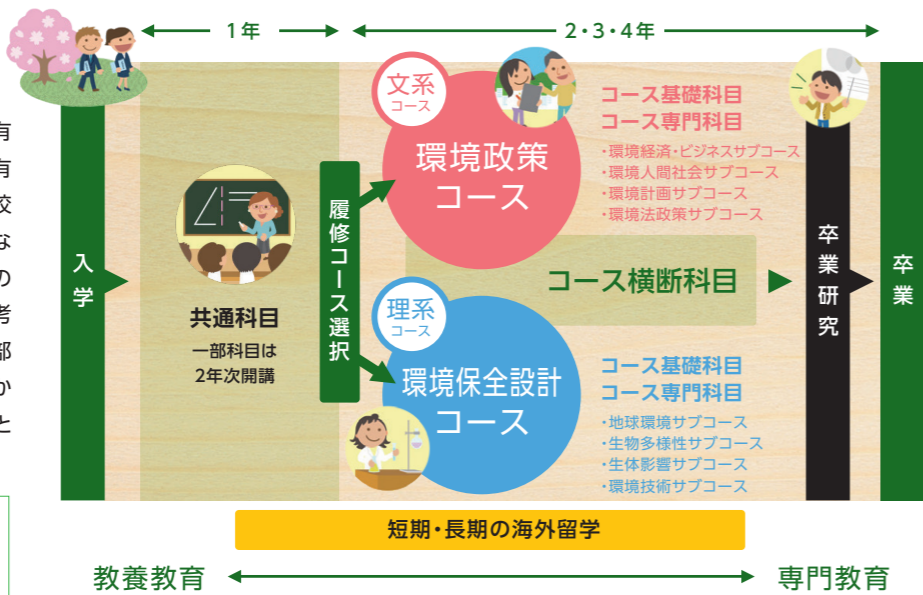
PICK UP! 授業・研究のひとこま

入試・カリキュラムの特徴

環境科学部の教育コースには、環境政策コース(文系)および環境保全設計コース(理系)の2つがあります。早期卒業制度により、成績優秀な学生は3年で卒業できます。

文系受験・ 理系受験を選べます

環境科学部の入試は、文系科目が有利な配点のA受験と理系科目が有利な配点のB受験があります。高校での履修コースに関わりなく得意な方を選択してください。一般選抜の受験者は共通テストの成績も参考にすると良いでしょう。これは本学部が環境問題に対処するには文理からの多角的なアプローチが必要と考えているためです。



入学後の文系と理系の 選択が可能

入学後の1年間、共通科目を学んだ後、2年進級時に環境政策コース(文系)と環境保全設計コース(理系)に分かれます。コース選択は、入試時の受験方法と関係なく選ぶことができます。

コース選択後も文理相互の 科目履修が可能

コース選択後、他コースの科目も履修できます(コース横断科目)。

サークルでの 環境活動も活発です!

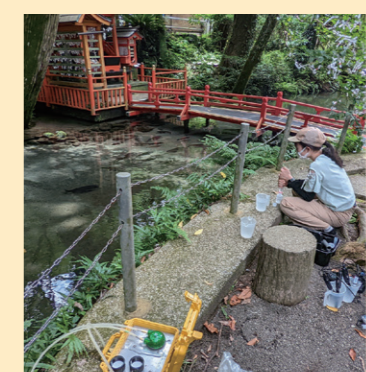


主に長大祭(学園祭)が活躍の場です。店舗に食器を貸し出し、洗浄・再貸し出しをすることで、使い捨て容器のゴミを減らす活動をしています。ゴミの分別指導や生ゴミの堆肥化も行っています。



長崎大学内のビオトープの管理や、鹿児島県出水市ツル渡来地への観察合宿、長崎市内のホテル観察、ヘビ調査、バードウォッチングなど多様な生態系の保全と観察を行っています。

環境フィールド演習IIは、1年生が全員履修する必修科目です。廃棄物焼却施設、下水処理場、太陽光発電設備など、長崎県内の環境関連施設を巡る演習です。ただ見学に行くのではなく、事前学習として各施設に関して深く理解する機会も設けられています。施設見学は5月に行われるので、入学して最初の環境科学部らしい野外実習といえます。



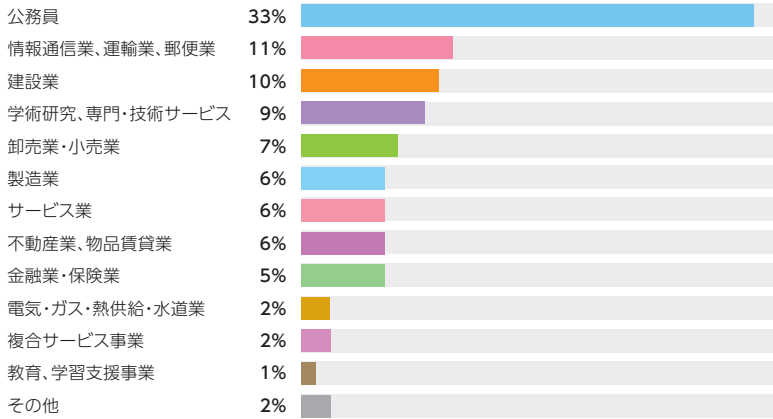
環境問題は現場で起きており、現地でのサンプル採集やインタビューなどの現地調査は重要なデータをもたらしてくれます。左の写真は、水環境科学研究室が行っている、鹿児島・唐船峡湧水での採水調査の様子です。この水サンプルを実験室に持ち帰って分析し、その水の歴史を紐解く研究をしています。環境科学部では、国内外の様々なフィールドを対象に、学生とともに幅広く調査研究を行っています。

詳しい入試情報は
こちら!



面接指導やエントリーシート添削など手厚い就職支援をおこなっており、高い進路内定率(令和5年度は96.2%)を誇ります。環境関係の企業はもちろん、公務員の比率が高いのも特徴です。

就職状況 令和5年度卒



環境科学部では、所定の授業科目の単位を修得すれば、社会調査士、環境再生医(初級)、自然再生士補、高等学校教諭一種免許状(理科)を取得できます。

就職・進学先の一例 過去5年度

- 環境系
 - 九州電力(株)
 - 協和機電工業(株)
 - 日鉄環境(株)
 - メタウォーター(株)
 - (株)建設技術研究所
 - 中外テクノス(株)
 - 独立行政法人海洋研究開発機構
 - 独立行政法人環境再生保全機構
 - 独立行政法人水資源機構 など
- その他
 - ライオン(株)
 - 大成建設(株)
 - NTT西日本(株)
 - JR九州(株)
 - 花王(株)
 - 大塚製薬(株)
 - 扇精光ソリューションズ(株)
 - 一般社団法人共同通信社
 - 住友大阪セメント(株)
 - (株)リクルート など
- 公務員
 - 長崎市役所
 - 福岡市役所
 - 北九州市役所
 - 長崎県庁
 - 東京都庁
 - 長崎税関
 - 長崎地方裁判所
 - 九州財務局
 - 福岡出入国在留管理局
 - 九州農政局
 - 林野庁
 - 長崎労働局 など
- 大学院進学
 - 長崎大学大学院
 - 東京大学大学院
 - 京都大学大学院
 - 九州大学大学院
 - 筑波大学大学院
 - 大阪大学大学院
 - 東京海洋大学大学院 など

卒業生と在学生の声

01 小西 遼一



時事通信社 社会部記者
環境政策コース 平成29年度卒

私が勤める時事通信社は、国内外に拠点を置く報道機関です。なじみがない会社かもしれませんが、主には全国の新聞社やテレビ局などに様々な分野の記事を配信する、いわば「ニュースの総合商社」です。中でも私は社会部の記者として、事件や事故、災害などを扱っています。私が記者を志した原点は、学部3年で行った東北被災地での野外調査活動です。被災者でありながら語り部をしていた男性の講演を聞いたあと、偶然1対1で話す機会がありました。語り部としては、あえ

て感情を交えた話をしないという男性でしたが、その場面ではポツリポツリと「本当は辛いんだ」と、自ら心情を吐露され始めたことが、強く印象に残っています。記者の仕事は、人の喜怒哀楽に触れて、ストーリーを掘り起こすことだと思っています。学生時代のこの経験は、いまだに私が仕事をする上で1つの軸となっています。皆さんもぜひ、机に向かう勉強以外にもたくさんの経験をして、充実した大学生活を送ってください!

02 長家 香子



長崎市 財政課
環境保全設計コース 平成29年度卒

環境科学部は文理融合型という特性が魅力的だったと思います。1年次は同級生と共に文系と理系、両方の講義を受けますが、そこで自分の興味関心がある分野を探ることができ、2年次・3年次では専門性を高めていくことができます。今はまだどんな道に進みたいかははっきりと決まっていない人もいると思いますが、環境科学部はやりたいことを見つける場にいると思います。また、今多くの企業では、[SDGs]と

いった様々な分野の課題解決に向けた取り組みを行うため、多面的に物事を考える力を持つ人材や積極性が高い人材を求めています。私は長崎市役所に勤めていますが、公務員も同様です。環境科学部のように文理両面から物事を考えること、サークルやアルバイト、ボランティア、留学など、様々な経験が多面的に考える力を養い、皆さんの糧になると思います。様々な経験を楽しみながら、大学時代でしか得られない充実した日々を送ってください。

03 松尾 怜



2年
環境政策コース
長崎県出身

環境科学部では1年次に教養科目を学び、2年次から保全設計コースと政策コースに分かれて学んでいきます。私は高校生までは理系を選択してきましたが、大学2年次に政策コースという、いわゆる文系の方を選択することにしました。今まで学んでこなかった哲学や経済学、法学といった分野に触れることで、興味が湧いたからです。興味関心の程度こそあるものの、はじめて学ぶことが多く新鮮な気持ちで学習することができています。私は海岸清掃を行うサークルに所属

しています。環境科学部として学んでいることをメンバーや地域の方に伝えられる機会もあります。例えば海洋プラスチックごみによる汚染を考えてみると、実験や数値を分析することだけでは汚染は防ぐことができません。汚染を防ぐための法や政策、その基になる倫理などをよく知り、連携させることで汚染に効果的な対策が講じることができると思います。文理融合学部で多様な分野を学ぶことは環境問題を学ぶ上では非常に適した学習環境ではないでしょうか。

04 浦川 恵



博士前期課程1年
総合生産科学研究所 共生システム科学コース
環境レジリエンス分野 長崎県出身

環境科学部の1番の特徴といえば文理融合で、文理の枠を超えて環境問題について学べる、多角的な視点を養うことができるというイメージの人が多くいます。私は環境科学部で過ごした4年間でより深い学部の魅力に気づくことができました。私は元々生物多様性に興味があり結果的に現在は進化生態学の研究室で研究をしていますが、入学してから様々な分野の授業を受けてみて、自分が生物以外にもいくつか興味があることに気が付きました。実際に授業や演習などを

通して考えが変わり、入学前に考えていたものと違う分野に進む人もたくさんいます。私は学生実験を経験して改めて理系の楽しさや研究の楽しさに気づき、大学院進学を決めました。また、それだけ広い分野について学べるということは、いろいろな人たちと出会うことができるということでもあると思います。先生方だけでなく研究室の先輩と一緒に授業を受ける同級生など、みなそれぞれの思いを持って環境科学部に来ているのでとても刺激を受けました。